

脳卒中地域連携パスを用いた回復期病院退 院時のトイレ動作自立の可否の検討 ー急性期病院でのデータを用いてー

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院リハビリテーション部

○上山栞 加藤香奈子 佐々木亮介

第56回日本作業療法学会

COI 開示

筆頭発表者名： 上山栞

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある 企業等
はありません。

はじめに

- ✓近年、高齢化に伴い脳卒中を発症する高齢者が増加しており、介護が必要となった主な原因の第2位は脳血管疾患である。
- ✓脳卒中ガイドラインでは急性期・回復期・維持期にわたって、一貫したリハビリテーションを行うことが推奨されており、脳卒中地域連携パスは切れ目のない医療を提供するうえで重要なツールである。

先行研究と目的

脳卒中患者の自宅退院に影響する要因

身体機能、ADL、年齢、家族状況などさまざまであるが、なかでもADL自立度が高いほど自宅退院が可能であり、特に「トイレ動作」は自宅退院に影響を及ぼすとの報告もある。



急性期病院の段階で連携病院退院時のADL遂行状況にある程度予測することは、対象者の今後の生活スタイルを考える上で重要と考えられる。

目的

パスを用い急性期病院退院時のデータをもとに回復期病院退院時のトイレ動作自立の可否に影響を与える要因を検討すること

対象



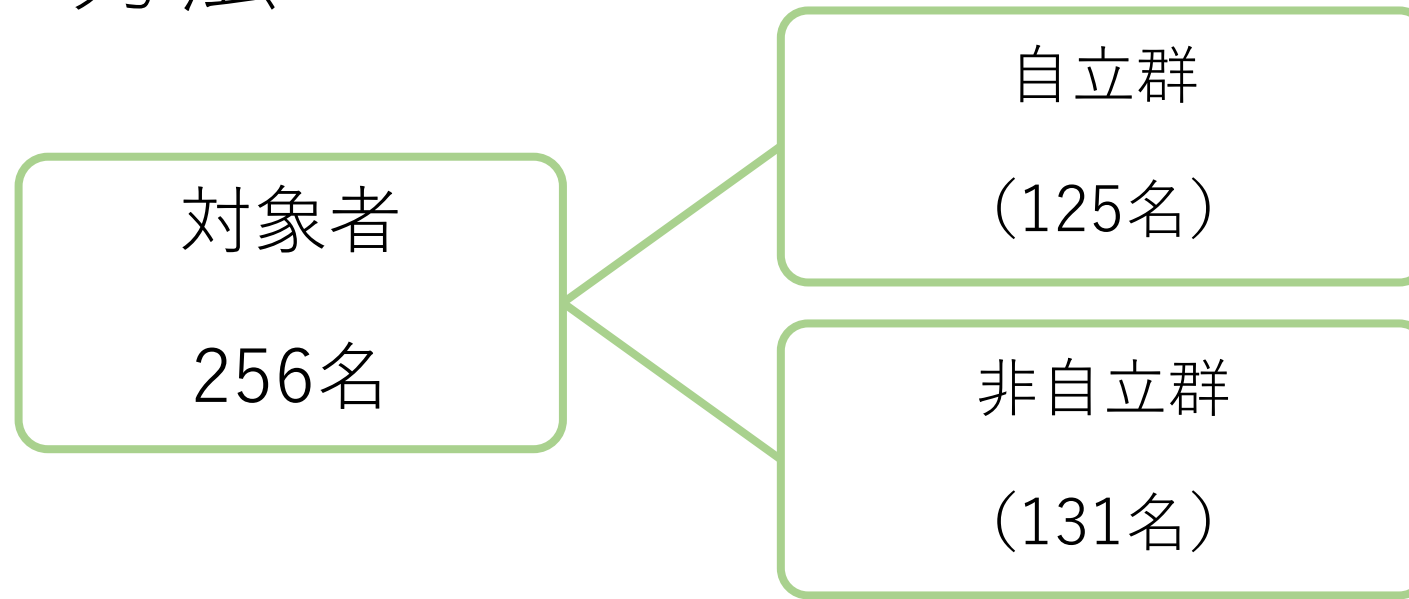
2011年4月～2021年3月に当院に脳卒中で入院し、回復期病院に転院した65歳以上の患者で、パステータの返却があったもの



—除外基準—

死亡退院例、データ欠損例

方法



回復期病院退院時の
FIMの「トイレ動作」
6－7点→自立群
1－5点→非自立群

検討項目

- ・ 年齢・性別
- ・ JCS
- ・ 身体機能（Br.stage上肢・手指・下肢、表在覚・深部覚）
- ・ 高次脳機能障害の有無（失行、失語、失認、注意障害、記憶障害、遂行機能障害）
- ・ MMSE

統計解析

2群間の比較

⑩ カテゴリ変数 $\Rightarrow$ χ^2 検定

⑩ 連続変数 $\Rightarrow$ Mann-WhitneyのU検定

回復期病院退院時のトイレ動作可否の予測因子の検討

⑩ ロジスティック回帰分析

⑩ 従属変数：回復期病院退院時のトイレ動作自立可否

⑩ 独立変数：JCS、Br.stage上肢、上肢表在覚・深部覚、下肢表在覚・深部覚、MMSE

⑩ ~~（群間比較にて有差を認めた項目のうち、相関係数、効果量を考慮し選択）~~

解析にはSPSSver.21を用い危険率5%とした

結果

2群間の比較で有意差を認めた項目

- JCS、Br.stage上肢・手指・下肢、
- ⑩上肢表在覚・深部覚、下肢表在覚・深部覚、
- ⑩失認・注意障害・遂行機能障害の有無、MMSE

ロジスティック回帰分析の結果

- ⑩JCS、Br.stage上肢、上肢表在覚・深部覚、下肢表在覚・深部覚、
- ⑩MMSEを独立変数とし**Br.stage上肢**、**MMSE**が採択された

結果 ロジスティック回帰分析

	B	標準誤差	Wald	有意確率	オッズ比	オッズ比の95% 信頼区間	
						下限	上限
Br.stage上肢	.247	.045	29.840	.000	1.281	1.172	1.400
MMSE	.118	.024	24.892	.000	1.125	1.074	1.178
定数	-4.854	.719	45.523	.000	.008		

考察

トイレ動作は…

- ✓ 上肢機能に加え座位バランスや立位バランス能力を必要とする
- ✓ 他のADL項目と比べても1日の中で行う頻度が高い



トイレ動作で介助を要する場合は介助者の負担感が大きくなり自宅退院が困難な要因となる

回復期病院退院時のトイレ動作自立の可否の予測因子のひとつは「Br.stage上肢」



上肢の運動麻痺が重度の場合…

- ✓ 肩甲帯の支持性が低下し、トイレ動作中に上肢の固定が困難となりやすく、座位・立位バランスにも影響する
- ✓ 下位操作や清拭動作の患側での使用が困難となり介助量が増加する

ことが推測される



急性期病院入院中に早期より重度麻痺患者に関してはエビデンスが高いとされている**物理療法**の併用や早期からのトイレ動作場面での**直接的なADL動作練習**などを実施することが必要

考察

回復期病院退院時のトイレ動作自立の可否の予測因子のひとつは「MMSE」

- ✓ トイレ動作の自立とMMSEに相関があるとの報告がある
- ✓ トイレ動作を実施するには尿意の有無や排泄動作を一連の流れで遂行する能力、道順を覚える記憶力などを必要とする



急性期病院入院中より…

高次脳機能障害も考慮し、せん妄予防や低刺激な環境による認知機能の低下も含め予防的な介入が必要

まとめ

○急性期病院退院時のパスデータを用いて回復期病院退院時のトイレ動作自立の可否に影響を与える因子を検討したところ「Br.stage上肢」「MMSE」が採択された。

○急性期病院での介入について、早期より運動麻痺への介入や高次脳機能障害も考慮しせん妄予防などの認知機能低下予防を図ることで、回復期病院退院時のトイレ動作自立の可否に影響を与える可能性が示唆された。